

出題分析		
試験時間 75 分	配点 150 点	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>大問 3 題で構成され, [Ⅰ] 原始～中世の文化, [Ⅱ] 近世の政治・外交・社会, [Ⅲ] 近現代の政治・外交を中心に問われた。昨年にはなかった史料読解問題に加えて, 原始時代・現代からの出題もみられた。</p> <p>一部でやや細かい知識を求める問題があったものの全体を通じて概ね解答しやすく, 基礎～標準レベルの知識で対応できる問題を中心に構成されていた。漢字のミスや設問文の誤読による失点を避け, 高得点を目指したい。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
[Ⅰ]	原始～中世の文化	<p>①縄文時代～鎌倉時代末期までの人々の信仰, ②奈良時代～平安時代の仏教, ③鎌倉新仏教をテーマに問われた。ほとんどが基礎～標準的なレベルの問題であり, 高得点を目指したい。</p> <p>(b). やや細かい知識だが, 入試問題では頻出である。(h). 迷ったかもしれない1の妙心寺は花園法皇が開基し, 室町時代に創建された禅宗寺院。3の万福寺は江戸時代に創建された黄檗宗の本山である。設問イ・ウ。「迹」の字に注意すること。設問オ. ②のリード文ではわかりづらいが, ③のリード文の空欄オから判断すればよい。設問カ・ケ・コ. 基礎的事項ではあるが, 漢字を正しく書けたかどうか。設問キ. 文脈からやや想起しづらい。設問ク. 一遍が「遊行上人」と呼ばれたことから想起すればよい。</p>	標準

設問別講評			
〔Ⅱ〕	近世の政治・外交・社会	<p>(1)で豊臣秀吉が奥州仕置について命じた文書, (2)で徳川家康の朱印状, (3)で田中丘隅『民間省要』と, それぞれ史料を用いて問われた。史料読解も必要とされたため, 時間配分に気をつけたい。</p> <p>設問ウ. 設問文では「人びとから集められた刀・脇差など」の使いみちは「大仏の鑄造原料」とされているが, この出題にあたって念頭においたと思われる刀狩令(1588年)では「大仏建立の釘・かすかひに仰せ付けらるべし」とあるのみで, 設問文にある「鑄造原料」に使うつもりとする根拠はない。なお, この時造営された大仏は木造であった。設問エ. やや難。刀狩のほか人身売買の禁止や百姓の移動について述べ, 最後に「天正十八年」(1590年)とある(1)の史料は, 奥州平定後に豊臣秀吉が所領統治(仕置)について奥州の諸大名に命じたものである。秀吉はこの前に小田原攻めを行い, 後北条氏を滅ぼした。下線b中の「武器類持ち候事御停止」から, この史料を刀狩令だと判断して解答しないように注意したい。設問キ. アンナンの現国名はやや難。設問ク. 史料の年代の「慶長9年(1604)」をもとに判断したい。なお, 解答には影響しないが, 印影の左上は「弘」ではなく, 漢字の偏のさんずいで, 右上の文字とあわせて「源」と読むという指摘もある。設問ス. 教科書等に記載はあるが, 正誤の判断は難。設問セ. 草木灰は鎌倉時代に登場した。設問ソ. 史料の「秣場の公事絶えず」から判断すればよいが, やや難か。「公事」とは裁判のこと。</p>	標準
〔Ⅲ〕	近現代の政治・外交	<p>(1)で第一次世界大戦後の国際協調の時代, (2)で満洲事変をテーマに, それぞれの関連事項が問われた。いずれも標準的なレベルの問題であり, 語句記述問題の設問文にはヒントも多かった。</p> <p>設問ウ. やや細かい知識が問われた。設問キ. 傾斜生産方式は第1次吉田茂内閣で閣議決定された。</p>	やや易

合格のための学習法

一部で細かい知識が問われたものの、大半は教科書に準じた内容を問う標準的な設問で構成されていた。したがって、設問文の誤読を含めたミスがないように解答することが大前提となる。そのためには、日頃から特定のテーマ・時代に偏らない丁寧な学習を続けることが肝要になる。教科書に加えて用語集を精読することで語彙と知識を増やし、細かい知識が要求される問題にも備えたい。過去問演習の際には、語群に出てきた用語は、選ばなかったものも含めてその内容を確認しておこう。また、図説資料集は、文化史の学習で活用するのは当然だが、地図が多く掲載されており、日本国内の出来事と連動させて諸外国の動向について確認するためにも、存分に活用したい。